PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

2000-026446

(43) Date of publication of application: 25.01.2000

(51)Int.CI.

C07D307/77 C08F 20/18 C08L 33/06 G03F 7/027 G03F 7/039

(21)Application number: 10-188853

(71)Applicant: NEC CORP

(22)Date of filing:

03.07.1998

(72)Inventor: MAEDA KATSUMI

IWASA SHIGEYUKI NAKANO KAICHIRO HASEGAWA ETSUO

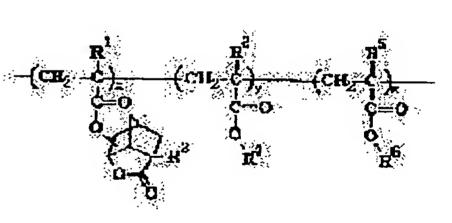
(54) (METH)ACRYLATE DERIVATIVE HAVING LACTONE STRUCTURE, POLYMER, PHOTORESIST COMPOSITION, AND FORMATION OF PATTERN

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a new (meth) acrylate derivative useful in e.g. producing resins used as photoresist materials with excellent dry etching resistance, transparency, substrate adhesion, and resolution.

SOLUTION: Thie new compound is shown by formula I (R1 and R2 are each H or methyl), e.g. 5-acryloyloxy-2,6-norbornanecarbolactone. The compound of formula I is obtained, for example, by reaction between 5-hydroxy-2,6-norbornanecarbolactone and acryloyl chloride in an inert organic solvent such as tetrahydrofuran in the presence of a base. Furthermore, it is preferable that this compound of formula I is either homopolymerized or copolymerized with another polymerizable compound to prepare e.g. a copolymer of formula II (R1 to R3 and R5 are each H or methyl; R4 is a group decomposable with an acid; R6 is H or a 1-12C hydrocarbon; (x), (y) and (z) are each 0 or 1, x+y+z=1) with a weight-average molecular weight of 2,000-200,000.





1

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

03.07.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

3042618 10.03.2000

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

en de la companya de la co

THE RESERVE OF THE RESERVE OF THE STATE OF T

to were a like the second form the second light of the second light light

The second of the second secon

The state of the s

> > i · · · · ·

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

特許第3042618号

(P3042618)

(45)発行日 平成12年5月15日(2000.5.15)

(24)登録日 平成12年3月10日(2000.3.10)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FΙ	
C 0 7 D 307/77		C 0 7 D 307/77	
C 0 8 F 20/18		C08F 20/18	
C08L 33/06		C 0 8 L 33/06	•
// G03F 7/027	•	G 0 3 F 7/027	501
7/039	601	7/039	601
	Grant Company of the St.	the state of the s	請求項の数6(全 10 頁)
(21)出願番号	特願平10-188853	(73)特許権者 0000	04237
		日本	电気株式会社
(22)出顧日	平成10年7月3日(1998.7.3)	東京	都港区芝五丁目7番1号
erras Watt.	DELTON MISTER AND THE CONTRACTOR	II	勝美
(65)公開番号	特開2000-26446(P2000-26446A)	東京	都港区芝五丁目7番1号 日本電気
	平成12年1月25日(2000.1.25)	株式	会社内
審查請求日	平成10年7月3日(1998.7.3)	(72)発明者 岩佐	繁之
	A CONTRACTOR OF THE STATE OF TH	11	都港区之五丁目7番1号 日本電気
1 M	Hardell Land Commence		会社内
. :			嘉一郎
\mathcal{P}_{1}	1、主人经验的特别。 11 持续 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	東京	邮港区芝五丁目7番1号 日本電気
· 四面的基础人	of the back and the state of	(74)代理人 1001(会社内)0893
14. 流色,产产人。	CONTRACTOR OF THE	(74)代理人 10010	10893
15.2 (1.11) (1.11) (1.11)	3. () (2. 17) (11) (11) (11)	开埋:	上渡辺勝(外3名)
	substances that the second of the second	審査官 内田	
State of the state	Jan Colling States	金河 日 内田	浮于
化自然电影 医水	"为为现象从此是基础。" (2.1) 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12		Constant of the American
	14 10 11 はい解析 (砂ゴ・チュック) 12	17.10 A	最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ラクトン構造を有する(メタ)アクリレート誘導体、重合体、フォトレジスト組成物、及びパタ ーン形成方法

10

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】 一般式(1)で表される(メタ),アクリレート誘導体。

进入原因化1947年,1951年1月21年1月25日

【化】如果,如果我们的

(上式において、 R^1 、 R^2 は水素原子、またはメチル基を表す。)

【請求項2】 請求項1記載の(メタ)アクリレート誘導体同士を重合、または請求項1記載の(メタ)アクリレート誘導体と他の重合性化合物とを共重合させて成る

ことを特徴とする重合体。

【請求項3】 前記重合体が 一般式(2)で示され、 重量平均分子量が2000~20000である請求項 2記載の重合体。

17 · · · 2 · ·

【化2】

(上式において、R¹、R¹、R¹、R¹、R¹は水素原子またはメチル基、R¹は酸により分解する基、酸により分解する基を有する炭素数7~13の有橋環式炭化水素基、またはカルボキシル基を有する炭素数7~13の有

橋環式炭化水素基、R 6 は水素原子または炭素数 $1 \sim 1$ 2 の炭化水素基を表す。 x、y、z はそれぞれ x + y + z = 1、 $0 < x \le 1$ 、 $0 \le y < 1$ 、 $0 \le z < 1$ を満たす任意の数である。)

【請求項4】 請求項2ないし3記載の重合体の1以上を70~99. 8重量%、及び露光により酸を発生する光酸発生剤を0. 2~30重量%含有するフォトレジスト組成物。

【請求項5】 請求項4記載のフォトレジスト組成物を被加工基板上に塗布する工程、180~220nm以下 10の波長の光で露光する工程、ベークを行う工程、及び現像を行う工程を少なくとも含むことを特徴とするバターン形成方法。

【請求項6】 露光光がArFエキシマレーザ光である 請求項5記載のバターン形成方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、新規な(メタ)アクリレート誘導体及びそれらの重合体に関わり、特に波長が220nm以下の遠紫外光を露光光とするフォトレジスト材料に用いられる樹脂の製造に有用な化合物に関するものである。

统禁 地區

[0002]

【従来の技術】半導体デバイスに代表されるハーフミクロンオーダーの微細加工を必要とする各種電子デバイス製造の分野では、デバイスのより一層の高密度化、高集積化の要求が高まっている。そのため、微細バターン形成のためのフォトリソグラフィー技術に対する要求がますます厳しくなっている。

【0003】特に0.18μm以下の加工技術を必要とする1Gビデリ上の集積度を持つDRAMの製造には、ArFエキシマレーザ(193nm)を用いたフォトリングラフィーの利用が最近考えられている[デナルド C. ホッファーら、ジャーナル・オブ・フォトポリマー・サイエンス・アンド・テクノロジー(Journal of Photopolymer Schence and Technology)、9巻(3号)、387頁~397頁(1996年)]。このためArF光を用いたフォトリングラフィーに対応するレジスト材料の開発が望まれている。

【0004】とのArF露光用レジストの開発に際しては、レーザの原料であるガスの寿命が短いとど、レーザ装置自体が高価であるなどなどから、レーザのコストパフォーマンスの向上を満たす必要がある。このため、加工寸法の微細化に対応する高解像性に加え、高感度化への要求が高い。

【0005】レジストの高感度化の方法として、感光剤である光酸発生剤を利用した化学増幅型レジストがよく知られている。例えば代表的な例として、特開平2-27660号公報には、トリフェニルスルホニウム・ヘキ 50

サフルオロアセナートとポリ(pーtertーブトキシカルボニルオキシーαーメチルスチレン)の組み合わせからなるレジストが記載されている。このような化学増幅型レジストは現在KrFエキシマレーザ用レジストに広く用いられている [例えば、ヒロシーイトー、C.グラントウイルソン、アメリカン・ケミカル・ソサイテティ・シンボジウム・シリーズ 242巻、11頁~23頁(1984年)]。化学増幅型レジストの特徴は、含有成分である光酸発生剤から光照射により発生したプロトン酸が、露光後の加熱処理によりレジスト樹脂などと酸対反応を起こすことである。このようにして光反応効率(一光子あたりの反応)が1未満の従来のレジストに比べて飛躍的な高感度化を達成している。現在では開発されるレジストの大半が化学増幅型である。

[0006]

【発明が解決しようとする課題】しかし、ArFエキシマレーザ光に代表される220nm以下の短波長光を用いたリングラフィーの場合、微細パターンを形成するためのレジストには従来の材料では満足できない新たな特性、すなわち220nm以下の露光光に対する高透明性とドライエッチング耐性が必要とされている。

【0007】従来のg線(438nm)、i線(365 nm)、KrFエキシマレーザ(248nm)用のフォ トレジスト材料は主に樹脂成分としてノボラック樹脂ま たはポリ (P-ビニルフェノール) など構造単位中に芳 香環を有する樹脂が利用されており、この芳香環のドラ イエッチング耐性により樹脂のエッチング耐性を維持で きた。しかし、芳香環を有する樹脂は220nm以下の 波長の光に対する光吸収が極めて強い。そのため、レジ スト表面で大部分の露光光が吸収され、露光光が基板ま で透過しないため、微細なレジストパターンの形成がで きず従来樹脂をそのまま220 n m以下の短波長光を用 いたフォトリソグラフィーには適用できない。したがっ て、芳香環を含まず且つエッチング耐性を有し、220 nm以下の波長に対して透明なレジスト材料が切望され 表键编码 (1) 2 Call (1) ている。

【0008】ArFエキシマレーザ光(193nm)に対し透明性を持ち、なおかつドライエッチング耐性を持つ高分子化合物として、脂環族高分子であるアダマンチ40 ルメタクリレート単位を持つ共重合体 [武智ら、ジャーナル・オブ・フォトポリマー・サイエンス・アンド・テクノロジー(Journal of Photopolymer Science and Technology)、5巻(3号)、439頁~446頁(1992年)]やイソボルニルメタクリレート単位を持つ共重合体 [R. D. アレン(R. D. Allen)ら、ジャーナル・オブ・フォトポリマー・サイエンス・アンド・テクノロジー(Journal of Photopolymer Science and Technology)、8巻(4号)、623頁~636頁(1995

年)、および9巻(3号)、465頁~474頁(1996年)]等が提案されている。

【0009】しかし、前者の樹脂において用いられている脂環基を有する(メタ)アクリレート誘導体は基板密着性を有する極性基(例えば、カルボキシル基、ヒドロキシル基等)を有していない。このため脂環基を有するモノマーの単独重合体では、疎水性が強く被加工基板

モノマーの単独重合体では、疎水性が強く被加工基板 (例えば、シリコン基板)との密着性が悪く。均一な塗 布膜を再現性よく形成することは困難である。さらにドライエッチング耐性を有するアダマンタン含有残基、イ ソボニル含有残基、又はメンチル含有残基単位中に露光 前後での溶解度差を発現しうる残基を有していないので 露光によりバターンを形成できない。そのため前者樹脂 では t ーブチルメタクリレートやテトラヒドロメタクリレートなどの溶解度差を発揮しうるコモノマーやメタクリルートなどの溶解度差を発揮しうるコモノマーやメタクリル酸のような基板密着性を持つコモノマーとの共重合体とすることにより初めてレジストの樹脂成分として利用できる。しかし、コモノマー単位のドライエッチング耐性が帯しく低いため、脂環基によるドライエッチング耐性効果が着しく低いため、脂環基によるドライエッチング耐性効果が着しく低下し、耐ドライエッチング性樹脂としての実用性に乏しい。

【0010】このため、220nm以下の光に対する光透明性が高く、エッチング耐性が高く、且つ基板密着性の向上した新しいレジスト用樹脂材料が切望されている。

[0011]

【課題を解決するための手段】発明者は上記の目的を達成するため鋭意研究を行った結果、本発明を完成した。 すなわち本発明は次のようである。

1. 一般式(1)で表わされる(メタ)アクリレート誘導体。

[0012]

[化3]

$$CH_2 = C$$

$$C = O$$

$$O$$

$$R^2$$

(上式において、R¹、、R²、は水素原子。またはメチル 基を表わす。)

2. 上記1 に記載の(メタ)アクリレート誘導体同士を重合、または上記1 に記載の(メタ)アクリレート誘導体と他の重合性化合物とを共重合させて成ることを特徴とする重合体。

3. 前記重合体が一般式(2)で示され、重量平均分子 量が2000~2000である上記2に記載の重合 体。

[0013]

【化4】

(上式において、R¹、R¹、R¹、R¹は水素原子またはメチル基、R¹は酸により分解する基、酸により分解する基を有する炭素数7~13の有橋環式炭化水素基、またはカルボキシル基を有する炭素数7~13の有橋環式炭化水素基、R6は水素原子または炭素数1~12の炭化水素基を表す。x、y、zはそれぞれx+y+z=1.0≤x≤1、0≤y<1、0≤z<1を満たす任意の数である。)

4. 上記2ないし3に記載の重合体の1以上を70~9
9. 8重量%、及び露光により酸を発生する光酸発生剤を0.2~30重量%含有するフォトレジスト組成物。
5. 上記4に記載のフォトレジスト組成物を被加工基板上に塗布する工程、18-0~220nm以下の波長の光で露光する工程、ベークを行う工程、及び現像を行う工程を少なくとも含むことを特徴とするバターン形成方法。

6. 露光光がATFエキシマレーザ光である上記5に記載のバターン形成方法。

[0014]

【発明の実施の形態】一般式(1)において、R¹、R² は水素原子またはメチル基である。

【0015】一般式(2)において、R¹、R²、R 30 、R¹は水素原子またはメチル基である。R¹は酸により分解する基、酸により分解する基を有する炭素数7~13の有橋環式炭化水素基、またはカルボキシル基を有する炭素数7~13の有橋環式炭化水素基である。

【0016】酸により分解する基の具体的な例は、t-ブチル基、テトラヒドロピラン-2-イル基、テトラヒ ドロフラシー2元イル基、64元メトキシテトラヒドロビ ランニ4ーイル基、コーエトキシエチル基、コープトキ シエチル基、1-プロポキシエチル基、3-オキソシク ロヘキシル基、2-メチル-2-アダマンチル基、8-. Tax i [[fend / gig]。 40。 メチルー 8 年下 リシクロ [[5.2.1]の fg] i デシル基 ([また は1、2、7、7ーテトラメチル※2ーノルボルニル※ 基、2-アセトキシメンチル基、2-ヒドロキシメンチ ル基、1-メチル-1-シクロヘキシルエチル基等が挙 げられるがこれらだけに限定されるものではない。また 酸により分解する基を有する炭素数7~13の有橋環式 炭化水素基またはカルボキシル基を有する炭素数7~1 3の有橋環式炭化水素基の具体的な例は、表1に示すよ うなカルボキシル基またはエステル基を有するトリシク ロ[5.2.1.ぴ・5]:デシルメチル基、トリシクロ[5.2.1. 50 ぴ・・・] デシル基、アダマンチル基、ノルボルニル基、メ

17、网络人员大阪市火

A CONTRACT OF THE SECOND

チルノルボルニル基、イソボルニル基、テトラシクロ [4.4.0.1・・・.1・・・0] ドデシル基、メチルテトラシクロ [4.4.0.1²・3.1⁷・1⁹] ドデシル基等が挙げられるが、と*

y the large programme of

The State of the Park

* れらだけに限定されるものではない。

[0017]

【表1】 •

表 1

ſi		基の化学構造・
4		西少山宁语 垣
	カルポキシル基またはエステル基を 持つ	~COOR7
	トリシクロ [5.2.1.0 ^{2.6}] デシルメチル 基	~ COOR ⁷
	カルポキシル基またはエステル基を 持つ	-COOR?
	トリシクロ [5.2.1.0 ^{2,8}] デシル基	— COOR ⁷
·		
	カルボキシル基またはエステル基を	
	方グマンチル基	COOR7
	カルボキシル基またはエステル基を 持つ	-COOR ⁷
,		7. M. 7. P
	カルボキシル基またはエステル基を 持つ	CH ₃ COOR ⁷
	メチルノルボルニル基	
The second second second	カルボキシル基またはエステル基を 持つ	CH ₃ CH ₃ CH ₃ CH ₃ COOR ⁷
!	イソボルニル基 カルポキシル基またはエステル基を	_COOR ⁷
	持つ 100 100 100 100 100 100 100 100 100 10	
	デトラシクロ [4.4.0.1 ^{2,5} .1 ^{7,10}] ドデ シル基	
		CH ₃
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1/1 -	-COOR ⁷
11. 11. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	JENE 1 32/10 [4/0 125]	
	メチルテトラシクロ [4.4.0.1 ^{2.5} .1 7:10] ドデシル基	
and the state of the state of	Contract of the contract of th	

表1中のR'は酸により分解する基であり、具体的な例 は、 t - ブチル基、テトラヒドロピラン-2-イル基、 テトラビドロブランド2ーイル基に4-メトキシテトラ ヒドロビラン-4-イル基、1-エトキシエチル基、1 ープトキシエチル基、1ープロポキシエチル基、3ーオ キソシクロペキシル基、2 - メチル-2-アダマンチル 基、8-メチル-8-トリシクロ[5.2:1.02.5] デシル 基、または1、2、7、7ーテトラメチルー2ーノルボ ルニル基、2-アセトキジメンチル基、2-ヒドロキシ メンチル基、1-メチルー1-シグロヘキシルエチル基 等が挙げられるがとれらだけに限定されるものではな Commence of the Control of the Control 67

【0018】R°は、水素原子または炭素数1~12の 炭化水素基であり、具体的には、メチル基、エチル基、 n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、イソ

ブチル基、 t - ブチル基、シクロヘキシル基、トリシク ロ[5.2.1.ぴ・・・] デシル基、アダマンチル基、ノルボニ ル基、イソボルニル基、テトラシクロ[4.4.0.13.5.1] 7・10] ドデシル基等が挙げられるが、これらだけに限定 40 されるものではない。

【0019】前述のように本発明の一つは前記重合体 と、光酸発生剤を含有するフォトレジスト用組成物であ る。本発明に用いる光酸発生剤は、400 nm以下、好 まじくは180nm~220nmの範囲の光照射により 酸を発生する光酸発生剤であることが望ましく、なおか つ先に示した本発明の重合体とよりなる組成物が有機溶 媒に十分に溶解し、かつその溶液がスピンコートなどの 製膜法で均一な塗布膜が形成可能なものであれば、いか なる光酸発生剤でもよい。また、単独でも、2種以上を 50 混合して用いてもよい。

【0020】使用可能な光酸発生剤の例としては、例え ば、ジャーナル・オブ・ジ・オーガニック・ケミストリ -(Journal of the Organic Ch emistry) 43巻、15号、3055頁~305 8頁(1978年)に記載されているJ. V. クリベロ (J. V. Crivello)らのトリフェニルスルホニ ウム塩誘導体、およびそれに代表される他のオニウム塩 (例えば、スルホニウム塩、ヨードニウム塩、ホスホニ ウム塩、ジアゾニウム塩、アンモニウム塩などの化合 物)や、2、6-ジニトロベンジルエステル類[O.ナ 10] ラマス(O. Nalamasu)ら、SPIEプロシーデ ィング、1262巻、32頁(1990年)]、1、 2、3-トリ (メタンスルホニルオキシ) ベンゼン [タ クミ ウエノら、プロシーディング・オブ・PME'8 9、講談社、413~424頁(1990年)]、平5 -134416号公開特許公報で開示されたスルホサク シンイミドなどがある。

【0021】光酸発生剤の含有率は、それ自身を含む全構成成分100重量部に対して通常0.2~30重量部、好ましくは1~15重量部である。この含有率が0.2重量部以上で十分な感度が得られ、パターンの形成が容易となる。また30重量部以下であると、均一な塗布膜の形成が容易になり、さらに現像後には残さ(スカム)が発生しにくくなる。

【0022】本発明の前記フォレジスト用組成物は溶液 の形態で塗布する。これに用いる溶剤として好ましいも のは、重合体と光酸発生剤からなる成分が充分に溶解 し、かつその溶液がスピンコート法などの方法で均一な 塗布膜が形成可能な有機溶媒であればいかなる溶媒でも よい。また、単独でも2種類以上を混合して用いてもよ い。具体的には、カープロピルアルコール、イソプロピ ルアルコール、nープチルアルコール、tertープチ ルアルコール、メチルセロソルブアセテート、エチルセ ロソルブアセテート、プロピレングリコールモノエチル エーテルアセテート、乳酸メチル、乳酸エチル、酢酸2 ーメトキシブチル、酢酸2-エトキシエチル、ピルビン 酸メチル、ビルビン酸エチル、3-メトキシプロピオン 酸メチル、3-メトキシプロピオン酸エチル、N-メチ ルー2ーピロリジノン、シクロヘキザノン、シグロペン タノン、シクロヘキサノール、メチルエチルケトン、 1, 4-ジオキサン、エチレングリコールモンメチルエ ーテル、エチレングリコールモノメチルエーテルアセテ ート、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレ ングリコールモノイソプロピルエーテル、ジエチレング リコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールジ メチルエーテルなどが挙げられるが、もちろんこれらだ けに限定されるものではない。

【0023】本発明のフォトレジスト組成物の「基本的な」構成成分は、上記の重合体と光酸発生剤であり、上記溶剤に溶かして使用するが必要に応じて界面活性剤、

色素、安定剤、塗布性改良剤、染料などの他の成分を添加しても構わない。

10

[0024]

【実施例】次に実施例により本発明をさらに詳細に説明 するが、本発明はこれらの例によって何ら制限されるも のではない。

【0025】実施例1

5-Acryloyloxy-2,6-norbornanecarbolactone (一般式 (1)において、R¹、R²が水素原子であるアクリレ ート)の合成。

[0026]

【化5】

5-Hydroxy-2,6-norbornanecarbolactone (H. B. H enbest5, J. Chem. Soc., 221-2 26頁(1959年))10g(0.0653mo 1)、N, N-ジメチルアニリン9. 49g、フェノチ アジン20mgを乾燥THF60mlに溶解し氷冷す る。そとに塩化アクリロイル6.5gを乾燥THF10 ml に溶解したものを滴下する。氷冷下2時間、室温で 3時間攪拌した後、濾液を減圧下濃縮する。残さにエー テル250m1を加え、0.5N塩酸200m1、飽和 食塩水、3%NaHCO3水溶液200ml、飽和食塩 水、水の順に洗浄する。エーテル層をMgSO4で乾燥 後、エーテルを減圧下留去し、析出した白色結晶をヘキ サン80m1×2で洗浄することで目的物を5.38g 得た(白色固体、収率40%)。融点:96℃;1H-NMR (CDC 13) δ 1.66 (1H, d), 1.78 (1H, d), 1.99-2.11 (2H, m), 2.53-2.62 (2H, m), 3.18-3.25 (1H, m); 4.59 (1H, d), 4.64 (1H, s), 5.89 (1H, dd), 6.11 (1H, dd), 6. 43 (1H, dd); IR (KBr) 2880, 298 $0 (\nu C - H)$, 1712, 1773 ($\nu C = O$), 1 618, 1630 (ν C=C), 1186, 1205 $(\nu C - O) c m^{-1}$

実施例2

5-Methacryloyloxy-2,6-norbornanecarbolactone (一般式(1)において、R¹がメチル基、R¹が水素原子であるメタクリレート)の合成。

[0027]

【化6】

11

塩化アクリロイルに代えてメタクリロイルクロリドを用 いた以外は実施例1と同様にして合成した(収率20 %) 1 H-NMR (CDC 13) δ 1.62 (1H, d) 1.75 (1H, d) 1.92 (3H, s). 1.95-2.16 (2H, m), 2.53-2.66 (2 H, m), 3.20-3.28 (1H, m), 4.59(1H, d), 4.65 (1H, s), 5.62 (1H, dd), 6.10 (1H, dd); IR (KBr) 28 80, 2982 (VC-H), 1715, 1780 (V C = O), 1630 ($\nu C = C$), 1156, 1178 $(\nu C - O) c m^{-1}$

実施例3

2-Methyl-6-acryloyloxy-2,6-norbornanecarbolactone (一般式(1) において、R¹ が水素原子、R¹ がメチ ル基であるアクリレート)の合成。

[0028] 【化7]

5-Hydroxy-2,6-norbornanecarbolactoneに代えて6-hydr oxy-2,6-norbornane-carbolactone (S. Beckma nnら、Chem. Ber. 94巻、48-58頁(1 961年))を用いた以外は実施例1と同様にして合 成した (収率30%)。 IR (KBr) 2880, 29 82 (ν C-H), 1716, 1774 (ν C=O), 1619, 1629 (ν C=C), 1188, 1208* : :

 $*(\nu C-O) cm^{-1}$. 【0029】実施例4

下記構造の重合体(一般式(2)において、R1、R ²、R³が水素原子、R⁴がt-ブトキシカルボニルテ トラシクロ [4.4.0.1'・・゚.1'・¹0] ドデシル基、x = 0. 7、y=0.3、z=0)の合成。

12

[0030]

【化8】

還流管を付けた100mlナスフラスコ中、実施例1で 得たアクリレート2.5gとt-プトキシカルボニルテ トラシクロドデシルアクリレート1.71gを乾燥テト ラヒドロフラン23mlに溶解し、そこにAIBN11 3mg (30mmol・1-1)を加え、アルゴン雰囲気 20 下60~65℃で撹拌する。2時間後放冷し、反応混合 物をメタノール400m1に注ぎ、析出した沈殿を濾別 する。さらにもう一度再沈精製を行うことにより目的物 を1.98 g得た(収率47%)。この時の共重合比は 1 H-NMRの積分比から70:30であった(x= 0.7、y=0.3)。GPC分析による重量平均分子 量 (Mw) は10800 (ポリスチレン換算)、分散度 (Mw/Mn) は1: 88であった。

【0031】実施例5、6

モノマーの仕込み比を変えた以外は実施例4と同様にし 30 て重合した。表2にモノマーの仕込み比、重合体の共重 合比(x/y)、得られた共重合体の重量平均分 示す。

[0032]

【表2】

· , · ; ·

, ;

	仕込み比	х/у	重量平均分子量
実施例5	0.5/0.5	0. 49/0. 51	13300
実施例6	0.35/0.65	0. 35/0. 65	11500

実施例7、8

AIBNの量(濃度)を変えた以外は実施例4と同様に して重合した。表3に重合体の共重合比(x/y)、得 られた重合体の重量平均分子量等を示す。 [0033] 【表3】

表3

	AIBN濃度	x/y	重量平均分子量
実施例7	5mm o 1 · 1-1	0. 7/0. 3	154000
実施例8	70mm o 1 · 1-1	0.69/0.31	3200

実施例9

下記構造の重合体(一般式(2)において、R1、R1、R1 が水素原子、R³ がメチル基、R¹がテトラヒドロピラ ニルオキシカルボニルテトラシクロ[4.4.0.1'.'. 1⁷·1°] ドデシル基、x=0.7、y=0.3、z= 0)の合成。

[0034]

[化9]

tープトキシカルボニルテトラシクロドデシルアクリレ ートに代えて、テトラヒドロピラニルオキシカルボニル テトラシクロドデシルメタクリレートを用いた以外は実 施例4と同様にして合成した。収率52%、Mw=12 0.00, Mw/Mn = 1.75.

【0035】実施例10

下記構造の重合体(一般式(2)において、R1、R2 が水素原子、Raがメチル基、Raが2-メチル-2-アダマンチル基、x=0.7、y=0.3、z=0) の 合成。

[0036] 【化10】

t-ブトキシカルボニルテトラシクロドデシルアクリレ ートに代えて、2-メチルー2-アダマンチルメタクリ レートを用いた以外は 実施例4と同様にして合成し た。収率42%、Mw=9500、Mw/Mn=1.9

実施例11

下記構造の重合体(一般式(2)において、R¹、R² が水素原子、R' がメチル基、R' が t - ブチルメタク 50 リレート、x=0. 7、y=0. 3、z=0) の合成。 [0037]

14

【化11]

ートに代えて、北上プチルメタクリレートを用いた以外 は実施例4と同様にして合成した。収率60%、Mw= 8400, Mw/Mn = 1. 74

実施例1.2

下記構造の重合体(一般式(2)において、R1、R **** R**が水素原子、R*が t - ブトキシカルボニルノ ルボルニル基、x = 0.7、y = 0.3、z = 0) の合 成。

[0038]

【化12]

t - ブトキシカルボニルテトラシクロドデシルアクリレ ートに代えて、 t ープトキシカルボニルノルボルニルア クリレートを用いた以外は実施例4と同様にして合成し 40 た。収率44%、Mw=9100、Mw/Mn=1.7 2

実施例13

下記構造の重合体(一般式(2)において、R1、R3 が水素原子、R¹がメチル基、R¹がt-ブトキシカル ボニルテトラシクロ [4.4.0.1・・・.1・・・0] ドデシル基、 x=0. 7、y=0. 3、z=0)の合成。

[0039]

【化13】

30

15
-(CH₂-C)_x (CH₂-C)_y
C-O C=O
-CH₃ -COOC(CH₃)3

実施例1で得たアクリレートに代えて、実施例3で得たアクリレートを用いた以外は実施例4と同様にして合成した。収率60%、Mw=11300でMw/Mn=1.88。

【0040】実施例14

下記構造の重合体 (一般式 (2) において、 R^1 、 R^2 、 R^3 が水素原子、 R^4 が t-7トキシカルボニルチトラシクロ [4.4.0.1 2 · 3 .1 3 · 1 0] ドデシル基、R5がメチル基、R6 が水素原子、x=0.6、y=0.3、z=0.1) の合成。

[0041] [化14]

遠流管を付けた100m1ナスフラスコ中、実施例1で得たアクリレート3gとtープドキシガルボニルテトラシクロドデシルアクリレート2.39g、メタクリル酸0.207gを乾燥テトラヒドロブラン30m1に溶解し、そこにAIBN147mg(30mmo1・1つ加え、アルゴン雰囲気下60~65℃で撹拌する。2時間後放冷し、反応混合物をメタノール500m1に注ぎ、析出した沈殿を濾別する。さらにもう一度再沈精製を行うことにより目的物を2.35g得た(収率42%)。この時の共重合比は1H-NMRの積分比から60:30:10であった(x=0.6、y=0.3、z=0.1)。Mw=9700、Mw/Mn=1.74。[0042]実施例15

下記構造の重合体 (一般式 (2) において、 R^1 、 R^2 、 R^3 、 R^3 が水素原子、 R^4 が t ープトキシカルボニルテトラシクロ [4.4.0.1 R^4 R^4] ドデシル基、 R^4 がトリシクロデシル基、 R^4 R^4 の合成。

[0043]

【化15】

$$(CH_2-c)_{\frac{1}{2}} (CH_2-c)_{\frac{1}{2}} (CH_2-c)_{\frac$$

メタクリル酸に代えてトリシクロデシルアクリレート

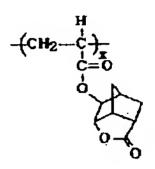
16

(日立化成工業(株)製、商品名FA-513A)を用いた以外は実施例14と同様にして合成した。収率57%、Mw=13700、Mw/Mn=2.13 実施例16

下記構造の重合体 (一般式 (2) において、 R^1 、 R^2 が水素原子基、x=1、y=z=0) の合成。

[0044]

【化16】



還流管を付けた50mlナスフラスコ中、実施例1で得たアクリレート3gを乾燥テトラヒドロフラン16mlに溶解し、そこにAIBN79mg(30mmol·l-1)を加え、アルゴン雰囲気下60~65℃で撹拌する。1時間後放冷し、反応混合物をメタノール200mlに注ぎ、析出した沈殿を適別する。さらにもう一度再沈精製を行うことにより目的物を1.8g得た(収率60%)。Mw=7100、Mw/Mn=2.05。【0045】実施例17

下記構造の重合体 (一般式 (2) において、R¹、R² が氷素原子、R³ がメチル基、R¹ が2ーアセトキシメンチル基、x=0.7、y=0.3、z=0)の合成。 [0046]

t-7トキシカルボニルテトラシクロドデシルアクリレートに代えて、2-7セトキシメンチルメタクリレート (特願平08-335603号記載)を用いた以外は実施例4と同様にして合成した。収率52%、Mw=8600、Mw/Mn=1.77。 【0047】実施例18

(重合体のエッチング耐性の評価)実施例5で得た重合体(樹脂)2gをプロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート10gに溶解し、次いで0.2μmのテフロンフィルターを用いてろ過した。次に3インチシリコン基板上にスピンコート塗布し、90℃、60秒間ホットプレート上でベーキングを行い、膜厚0.7μmの薄膜を形成した。得られた膜を日電アネルバ製DEM451リアクティブイオンエッチング(RIE)装置を用いてCF4ガスに対するエッチング速度を測定した(エッチング条件:Power=100W、圧力=5Pa、

ガス流量=30sccm)。その結果を表4に示す。同様にして、実施例15で得た重合体(樹脂)についてもエッチング速度を測定した。比較例としてノボラックレジスト(住友化学社製PFI-15A)、KrFレジストのベース樹脂として使用されているポリ(p-ビニルフェノール)、および分子構造に有橋環式炭化水素基も**

* 持たない樹脂であるポリ (メチルメタクリレート) 塗布 膜の結果も示す。なおエッチング速度はノボラックレジ ストに対して規格化した。

[0048]

【表4】

表 4

	エッチング速度(相対比)	
実施例 5	1. 15	
実施例 1 5	1. 15	
ポリ (メチルメタクリレート)	1.9	
ポリ (pーピニルフェノール)	1. 2	
ノポラックレジスト (PFI-15A)	1	

上記の結果から、本発明の重合体(樹脂)はCF。ガスに対するエッチング速度が遅く、ドライエッチング耐性に優れていることが示された。

【0049】実施例19

(重合体の透明性の評価)実施例5で得た重合体(樹脂)2.5gをプロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート10gに溶解し、次いで0.2μmのテフロンフィルターを用い濾過した。次に3インチ石英基板上にスピンコート塗布し、90℃、60秒間ホットプレート上でベーキングを行い、膜厚1μmの薄膜を形成した。この薄膜について、紫外可視分光光度系を用いてArFエキシマレーザ光の中心波長である193.4nmにおける透過率を測定した。同様にして、実施例15で得た重合体(樹脂)についても測定した。透過率は実施例5で得た重合体が54%/μm、実施例15の重合体が55%/μmであった。この結果から、本発明の重合体は、単層レジストとして利用可能な透明性を示すことを確認できた。

【0050】実施例20

(重合体を用いたレジストのパターニング評価)

下記の組成からなるレジストを調製した。

(a) 重合体(実施例5):2g

- (b) 光酸発生剤(トリフェニルスルホニウムトリフレート(TPS)):0.02g
- (c) プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート:11.5g

上記混合物を0.2μmのテフロンフィルターを用いて ろ過し、レジストを調製した。4インチシリコン基板上 30 に上記レジストをスピンコート塗布し、130℃1分間 ホットプレート上でベークし、膜厚O. 4 μ mの薄膜を 形成した。そして窒素で充分パージされた密着型露光実 験機中に成膜したウェハーを静置した。石英板上にクロ ムでパターンを描いたマスクをレジスト膜上に密着さ せ、そのマスクを通してArFエキシマレーザ光を照射 した。その後すぐさま110℃、60秒間ホットプレー ト上でベークし、液温23℃の2.38%TMAH水溶 液で60秒間浸漬法による現像をおこない、続けて60 秒間純水でリンス処理をそれぞれおとなった。との結 40 果、レジスト膜の露光部分のみが現像液に溶解除去され ボジ型のパターンが得られた。 同様にして実施例15で 得た重合体を用いたレジストについても同様に評価し た。表5に感度、および解像度の結果を示す。

[0051]

【表5】

寒5

20

20		
	解像度 (μ mL/S)	感度 (mJ/cm²)
実施例5の重合体を含有する レジスト	0.19	6.5
実施例 15の重合体を含有する レジスト	0.20	7

*

以上の結果から、本発明の重合体を用いたフォトレジス ト材料は優れた解像特性を有することが分かった。また バターン剥がれなどの現象がなかったととから、基板密 着性にも優れていることが確認できた。

[0052]

*【発明の効果】以上に説明したことから明らかなよう に、本発明の重合体はドライエッチング耐性、透明性に 優れ、更に本発明の重合体を用いたレジスト材料は解像 10 度、基板密着性に優れており、半導体素子製造に必要な

フロントページの続き

(72)発明者 長谷川 悦雄

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気

株式会社内

(56)参考文献 特開 平8-333304(JP, A)

> Tetrahedron Lette rs, No. 10, p. 723-726 (1976) Chemical Abstract s, 107: 236119

The state of the s

(58)調査した分野(Int.Cl.', DB名)

CO7D 307/77

微細パターン形成が可能である。

C07D 307/93

G03F 7/027 501

G03F 7/039 601

CAPLUS (STN)

REGISTRY (STN)

1. · 心理想:特别是不是" The state of the s and the second of the second o ,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人的人,我们就是一个人的人,我们就是一个人的人,我们就会一个人的人,我们就是一个人的人,我们就是一个人的人,也不是 第二章 the state of the state of For the second of the second o